

## 第2章 語源って何?

これまで「語源、語源」と、「語源」という言葉が、繰り返し出てきました。でも、語源ってなんでしょう。

本書のテーマは、どう勉強すれば、単語の使い方(語法)、多義語、語感、そして、文化・歴史の理解に「語源」を役立てていけるのか、です。この章では、手始めに「英語の語源とは何なのか」を考えてみたいと思います。

語源とは、もちろん、英語の単語がどのようにできてきたのか、その源みなもとのことです。

英語の語源は、次のような**3つの観点**から、私たちが英単語を理解し、覚えるのに役立ちます。

- ① 単語は「接頭辞」、「接尾辞」、「語根」という部品(要素)から構成されているものが多い。これらを理解することが単語を覚えるときの助けとなる。
- ② 単語の中に、他の単語が隠れている。「知っている単語」が知らない単語を覚える手助けをする。
- ③ 単語には来歴(その単語がこれまで経て来た筋道)がある。単語の来歴を知ることが、単語の語感をつかむのに役立つ。

語源について学んだことのある人は、これだけでピンとくると思いますが、そうでない人のために、また確認も含めて、具体的に説明していきましょう。

### (1) 接頭辞・接尾辞・語根

先ほどのリストの①です。「語源を使って英単語を覚える」という本は、数多く出版されていますが、こういった本の大部分は、単語を「接頭辞・接尾辞・語根」に分けて説明しています。

たとえば、**importer**(輸入業者)は、次のようになります。

∞ im- (= -in 中に) + -port- (港・運ぶ) + -er (人)  
= 外国の製品を運んでくる人 → 輸入業者

英単語は

- 単語の頭にくっつける部分 ⇨ 「接頭辞」
- 単語の中心的な部分 ⇨ 「語根(語幹ともいう)」
- 単語の最後にくっつける部分 ⇨ 「接尾辞」

の3つの部分に分けられます。importerの例で言えば、

im- (接頭辞) + -port- (語根) + -er (接尾辞)

となるわけです。もちろん、すべての単語にこの3つが備わっているわけではなく、語根だけで1語になったり(例: port 港)、接頭辞と語根だけで1語になったり(例: import 輸入する)することもあります。

importのportは、接頭辞をex-(外に)に変えたり、後ろに接尾辞-able(できる)をつけることによって、別の単語をつくることができます。

- export 名/動「輸出(する)」
- portable 形「持ち運びのできる」